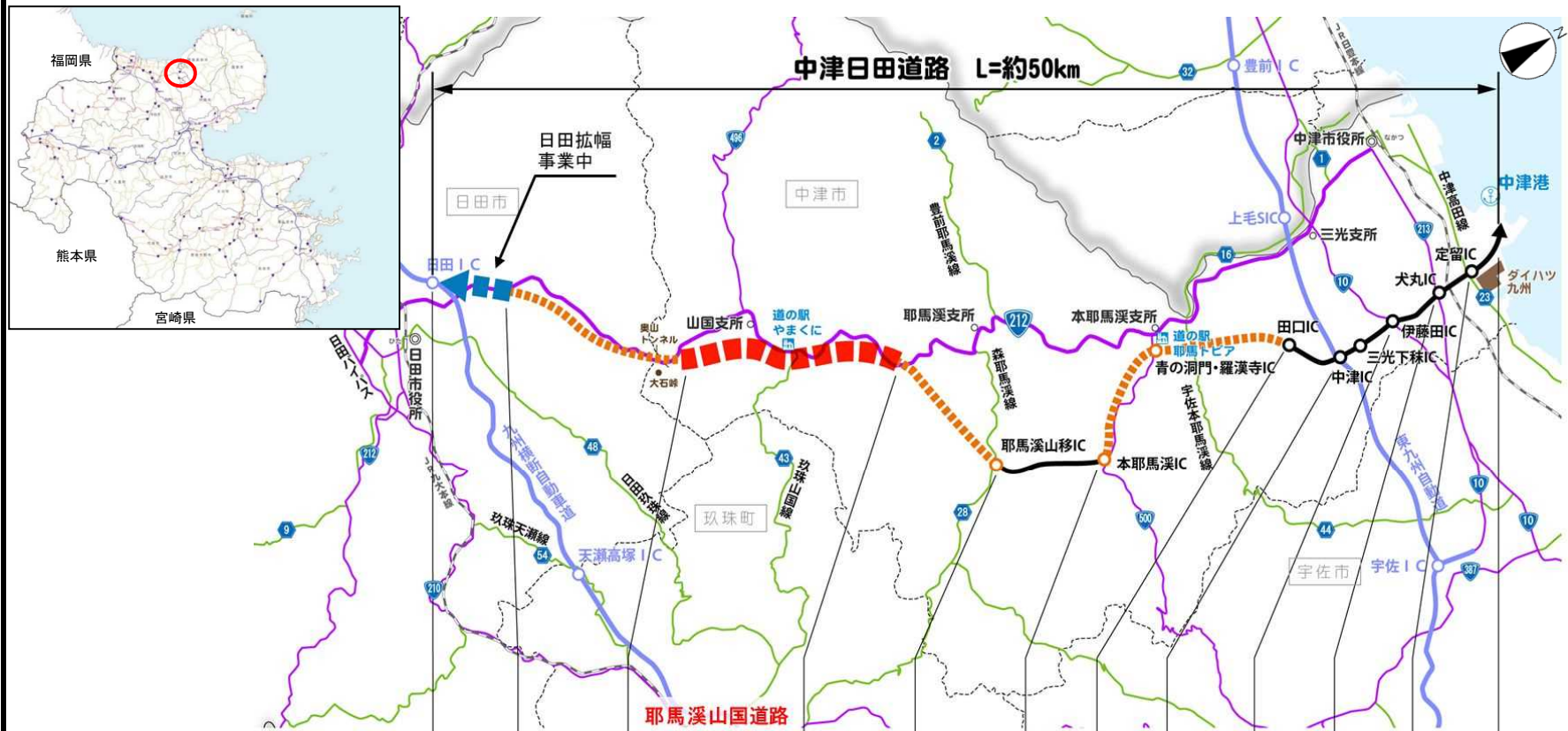


# 事前評価書

年度	令和2
整理番号	

事業名・路線名等		道路改築事業・国道212号 耶馬溪山国道路 <small>やばけいやまくにどうろ</small>	事業主体	大分県	
所在地		中津市耶馬溪町大字大島～中津市山国町守実 <small>なかつ やばけい おおしま なかつ やまくに もりざね</small>			
事業概要	事業の目的	・自動車専用道路の整備による走行環境の改善及び通行時間の短縮			
	事業内容	【計画延長・幅員】 L=8,500m(バイパス)、W=7.0(12.0)m 【道路区分】 第1種第3級 【設計速度】 V=80km/h 【計画交通量】9,400～11,700台/日(令和12年推計) 【現況幅員・交通量】 W=6.0(10.5)m 7,613～8,154台/日(平成27年道路交通センサス) 【重要構造物】トンネル7基(L=215m～2,300m)、橋梁9橋(L=20m～161m)			
	事業費	C=45,800百万円			
事業の実施計画	完成予定年	着手から10年(令和12年度)			
	事業段階毎の実施計画	1年目 測量、調査、設計 2年目 測量、調査、設計 3年目 測量、調査、設計、用地補償、道路工事 4年目 調査、設計、用地補償、道路工事 5年目 調査、設計、道路工事 6年目 調査、設計、道路工事 7年目 調査、設計、道路工事 8年目 道路工事 9年目 道路工事 10年目 道路工事 完成			
	事業の必要性	必要性・緊急性 ・現道国道212号には、線形不良箇所(R<150m、5箇所)及び縦断勾配不良箇所(i>5%)が存在 ・災害(冠水、法面崩壊、落石)や積雪凍結による通行規制が多発しており、安全かつ円滑な交通が確保できていない ・通行止めが生じた場合、大きな迂回が必要 ・物流ルートとして重要な路線であり、交通量も増加傾向 ・当該区間の未整備により地域高規格道路の連続性が確保されていない			
	整備効果	・自動車産業をはじめとした地域産業を支える効率的な物流ネットワークの強化 ・線形勾配不良及び冠水、落石、積雪凍結等の現道の課題解消による信頼性の高い道路ネットワークの形成 ・新たな周遊ルートの形成による広域観光振興の支援 ・地域高規格道路中津日田道路の未整備区間の解消			
	事業手法・工法の妥当性	費用効果分析 ・費用便益比(B/C)=1.9			
	工法の妥当性	・道路法、河川法、道路構造令、道路橋示方書等に適合した工法を採用 ・バイパス案2案、現道改良1案の比較を行い、現道の課題を解消し、最も投資効果の高いルートを選定			
	コスト削減	・長大トンネル及び長大橋における幅員縮小(中央帯省略) ・アスファルト・コンクリート・砕石は再生資材を利用			
	環境等への配慮	・大分県環境配慮推進要綱に基づき環境調査を実施し、環境の保全について適正な配慮を行っている ・トンネルが約6割を占め、地形改変による影響が小さい計画としている			
	事業実施環境	事業の実効性	・地元説明会を開催し、事業への合意形成を図っている。(令和2年6月) ・地元主催によるWEBシンポジウム開催(令和2年9月) ・平成19年から毎年、中津日田間地域高規格道路促進期成会より要望あり		
		事業の成立性	・道路法第12条に基づき事業を実施 ・「安心・活力・発展プラン2015」、「おおいた土木未来プラン2015」、「おおいたの道構想2015」において、広域交通ネットワークの整備推進が位置づけられている ・道路局所管補助事務提要に規定された事業内容、採択基準の要件に適合		
事業の特殊性		・河川内において橋梁下部工を施工する場合は、非出水期の施工となる			
対応方針		・以上のとおり事業の必要性、事業手法・工法の妥当性が認められ、事業実施環境も整っている →本事業を実施			

# 事業箇所位置図



	調査区間	事業中	計画路線	事業中	供用区間 (H24.3)	事業中 (直轄機関代行) (H31.3)	供用区間 (H27.2)	供用区間 (H21.3)	供用区間 (H27.3)	
区 間	日田市内	日田山国道路	中津市耶馬溪町～ 中津市山国町	耶馬溪道路	本耶馬溪 耶馬溪道路	三光本耶馬溪 道路	中津三光 道路	中津道路・中津港線②	中津港線① (臨港道路)	
延 長	約4.0km	8.8km	8.5km	5.0km	5.0km	10km	2.8km	3.0km	3.6km	3.4km

※「調査区間」とはルート選定、環境調査、等の調査を進める区間のこと。